

～土に触れ 心を育む～ 河内区で広がる世代間交流



ふるさと・水と土基金事業

農業体験を通じた世代間交流を

山梨県笛吹市石和町河内区では、地区内の遊休農地を活用し、地元富士見小学校の児童と地区住民が農業体験を通じた世代間交流を実施しました。

この活動は、河内公民館の館長角田さんを中心に区と小学校が協議を重ね、JAに営農支援の協力を仰ぎ、実現に至りました。

地区では、近年核家族化が進み、三世帯が同居する家族は大変まれになってきていました。また、新型コロナウイルス感染症拡大によって地区内での人的交流が減り、人との関わり・繋がりがさらに希薄になっている状況を心配していました。

そこで、作付けから収穫、焼き芋体験まで、一年を通じて体験し農業の楽しさや大変さを感じる場を設けることで、子供たちは土に触れ、作物が育つ過程を学びながら、地区の方々との絆を深めました。こうした活動が、食育にもつながり、未来を担う子供たちに「命を育む大切さ」を伝える貴重な機会となっています。

農業体験の流れ

苗植え

畑の草刈り・水やり

大豆収穫

サツマイモ収穫

焼き芋パーティー



大豆収穫



苗植え



おいしく
焼けるかな

焼き芋体験



抜〜け〜
な〜い〜

サツマイモ収穫

地域の絆と文化を未来へ 河内区の農業体験と伝統継承の取り組み

笛吹市石和町河内区では令和7年から、富士見小学校の児童と地区住民が一年を通して農業体験を行う新たな取り組みがスタートしました。同時に、地区に古くから伝わる「舞(まい)」の継承にも力を入れており、「子どもたちを地区全体で育む」取り組みが動き出しています。今回は、この活動を牽引する代表者に話を伺いました。

「顔も知らないままではいけない」 活動の原点にあった危機感

代表者がこの活動を始めようと考えたきっかけは、地区の現状への強い危機感でした。

近年、子どもとお年寄りが触れ合う場はほとんどなく、顔を合わせるのには年に一度の「どんど焼き」くらい。

「地区に住んでいても、どの子どもか分からない。そんな状態を変えたい」と感じていたといいます。

そこで、「一緒に手を動かせば自然に関わりが生まれるのでは」と考え、地区の協力も得られる農業体験に着目しました。

「まずは畑から」学校との連携で 実現

相談を持ちかけた富士見小学校からは、すぐさま「ぜひやりましょう」と前向きな返事。

地区の畑所有者にも協力を依頼し、まずはサツマイモと大豆の栽培に挑戦することが決まりました。

サツマイモは育てやすく子どもたちにも親しみがある食材、大豆は小学3年生の国語の授業で「すがたをかえる大豆」について学ぶからという理由から選んだそうです。



公民館長
角田好弘さん

「笑顔があふれた」子どもも大人も 初めての体験

実際に活動を進めると、地区のお年寄りからは「普段交流する機会のない子どもたちと触れ合えて嬉しい」という声が多く聞かれました。

子どもたちも苗植えや収穫など、初めての畑仕事に興味津々。特に焼き芋体験では、子どもも大人も「自分で焼くのは初めて」という人が多く、会場は笑顔に包まれました。

活動後には小学生から寄せ書きが贈られ、代表者は「やってよかったと心から思えた」と語ります。

伝えたいのは「地区の魅力」

代表者がこの活動を通じて最も伝えたいのは、地区に触れる大切さです。

「子どもたちには地区の魅力を知ってもらい、将来はこの地区を担う存在になってほしい。そのための最初のきっかけにしたい」と話します。

活動は来年度以降も継続へ。地域全 体への広がりも期待

今年度は河内区1自治会での取り組みでしたが、来年以降も継続していく予定です。

将来的には笛吹市の「地域福祉推進委員会」へ運営を移し、地域全体の取

り組みへと発展させたい考えもあるとのこと。

「大変さ」も次への学びに

一方、大豆の栽培では消毒ができなかったため虫害が発生したほか、夏場の水や草の管理など苦労も多かったと言います。

こうした経験を踏まえ、次回以降はなるべく手のかからないサツマイモに絞って今年度よりも面積を広げて実施する予定です。

明治から伝わる「地区の舞」を次世代へ

河内区では、今後さらに保護者も参加できる企画を検討し、地域全体で子供たちを育む環境づくりを進めていく予定です。

また、農業体験にとどまらず、地区で古くから受け継がれてきた「神楽の舞」の伝統文化を次世代へ継承する活動も実施しています。

こうした取組は、地区の魅力を再発見し、世代を超えたつながりを育む大切な一歩です。



天兒屋根命の舞

(アメノコヤネノミコトのまい)